

メモランダム 読者と編集者 (RE)

エリアエディタ制の導入について

最近、投稿される論文の分野が非常に多様化したため、分野によってはレフェリーの選任が難しく、会員外の有識者に査読を依頼することも多くなっていました。そのため、査読評価基準のばらつきの発生、また、査読プロセスの長期化などの問題が浮上していました。そこで、編集委員を7つの研究分野^(注)(エリア)に分け、投稿された論文に対して該当するエリアから一人の担当者(エリアエディタ)を選定し、その担当者に査読者の推薦と査読プロセスの管理を任せるという形で、エリアエディタ制を昨期(29期)から試験的に実施して、その導入の可能性と導入による効果、問題点を探っていました。その結果、目立った問題点はみられなかった一方で、担当論文に対する担当者の責任感が醸成され、査読品質の向上が達成できたと考えます。

先日の総会において、エリアエディタ制が正式に認められましたので、今期(30期)から本格的にエリアエディタ制を導入いたします。制度導入の目的である掲載論文の品質向上(ばらつきの削減)と査読期間短縮を達成できるように委員会では努力してまいりますので、会員各位のご理解とご協力をお願い致します。

(注) 事業経営(経営一般)、IE・人間工学、生産マネジメント(生産管理)、財務・金融、OR、確率統計、経営情報システム

以下に、修正エリアエディタ制の簡単な枠組みを示します。

(1) エリアエディタの選出

エリアエディタはJIMA専門分野における専門家であり、十分な研究業績を持っていることを前提とし、理事や代議員など多方面からの推薦を受けて、編集委員会が分野ごとに若干名選出して委嘱を行い、名簿を作成して理事会に提出する。編集委員はいずれかのエリアのエリアエディタを兼ね、そのエリアの編集委員会における代表者となる。

(2) 編集委員会の機能

投稿された論文に対し、その論文を担当するエリアエディタ(以下、担当エリアエディタ)を選任し、担当エリアエディタの報告を原案として、レフェリーの選定や論文の採否を決める。また、各種編集上の問題の処理、エリアエディタの追加委嘱や委嘱解除、規則改定、HP管理、メモランダムの編集、特集号のプロモーションなど、論文誌の編集業務および活性化と査読プロセスの迅速化に関するすべての業務を遂行する。

(3) エリアエディタの機能

選ばれた担当エリアエディタは論文投稿の内容を把握し、レフェリー選出、レフェリーコメントの評価、レフェリーコメントが割れた場合の対応(第3レフェリー選出など)、B判定のチェック(判定は編集委員会)など、当該論文の査読プロセス全般につき編集委員会に助言する。